

日本型フォレスター育成への取り組み ～准フォレスター研修を振り返って～

利根沼田森林管理署 (指導普及課)
森林技術普及専門官 高田 悟

1 背景

森林・林業再生プランの大きな柱の一つであり、現場レベルで具体的な対策を実行していく人材として、再生プランの“エンジン”と称される日本型フォレスターの育成がスタートしました。

今年度から始まった「准フォレスター研修」を振り返り、今求められる技術者像を再確認するとともに、趣向を凝らした研修運営の効果と課題、今後に向けて必要な取り組みの方向性を探ります。

日本型フォレスターとは？

- **広域的、長期的な視野**を持って地域の森林経営の **ビジョン**を描き、
- **中立的な立場**で地域の関係者を指導する、地域の森林・林業の **牽引者**

2 取り組みの経過

フォレスターの認定制度が開始され本格的に活動するまでの間は、都道府県職員や国職員等のうち一定の研修を受けた者が、「准フォレスター」として、市町村森林整備計画の策定や森林経営計画の認定等を担う市町村行政に対して、技術面からの支援業務を行うこととされています。

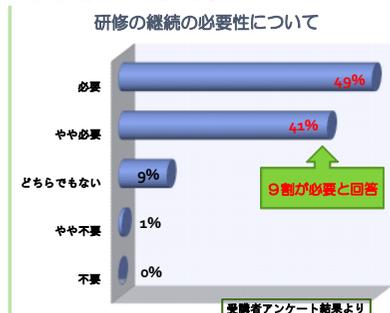
その育成を目的に、外部有識者等で構成される研修運営委員会による入念な実施計画に基づく、准フォレスター研修が全国7局のブロック毎に行われ、関東局においては研修拠点として新たに整備された利根沼田森林管理署を舞台に実施しました。



3 実行結果

この研修には、外部委託による運営サポート・進行役の配置など、研修効果を高めるための新たな工夫がいくつもなされました。

また、“双方向の研修”を合言葉に、「グループ演習→発表→意見交換と共有」という過程の中で、多様な観点があること、答えが一つではないことを、各々が感じて持ち帰り、地域での活動に生かすことをねらいとした構成を重視しました。



受講者アンケート結果には、「これまででない研修であった。林野庁の本気度を強く感じた。」等の肯定的な意見が多く、9割が研修継続を必要と回答していることから、総じて好評を得たと感じていますが、一方では「内容を詰め込み過ぎ。」等の否定的な意見もみられました。

4 考察

研修修了後は、都県・国有林の准フォレスターがそれぞれの組織内での協力体制を背景に、チームを組んで市町村の支援にあたりとされています。

今後の本格的な活動に繋げていくためには、研修内容の充実と、研修の

実効性を高めるための企画と併せて、何よりも「フォレスターは面白そうだ。」と思ってもらえることが重要と考えています。併せて、制度面の明確化と定着へ向けた普及PRなどを重点と捉え、日本型フォレスター育成への取り組みを進めて参ります。

今後の取組みにむけて

准フォレスター研修の進化【徹底】

- 受講者情報の把握
- 学び手の立場で企画
- 「面白そうだ」と「参加したい」と思わせる
- 参加型の研修、コミュニケーション能力向上へ

研修終了後のフォローアップ

- 人的ネットワークを継続して活用...
- 定期的な講習会や意見交換会の開催...

制度面の明確化・PR

- 資格制度・配置・バックアップ体制.../明確・定着
- やりがい・楽しさ・メリット.../普及・PR...